町報
1996
2月
No.299

こうふ

■ゴミの収集から焼却まで……P 2
■転作……P 6
■町のわだい……P 7
■教育コーナー……P 8
■お知らせ……P 14
■人の動き・元気ですヤング……P 16

雪のなか 元気に登校する 児童たち

（小江尾橋で）

―燃えるゴミ―

可燃物の袋にこんなものが…。

ゴミ収集、同行ルポ

一月二十六日。横なぐりの雪が降りしきるこの日、ゴミ収集車に同行し、ゴミの集積、収集そして焼却のようすを取材しました。

この日(午前)のコースは川筋・俣野地域。(なお、不燃物の収集などのようすは、次回三月号で紹介します。)

知恵をしぼったゴミ集積所目立つ

きょうのゴミ収集は、川筋、俣野地域そして、貝田、大河原地域。午前八時前に、焼却場を出発したゴミ収集車はまず最初に一旦集落から収集を始めました。

この収集車の収集量は約二トン。集積所にあるゴミ袋が次々と収められていきます。(このゴミ処理事業は町から江尾貨物自動車㈲に委託されているものです)

各集落によって、ゴミの集積所は様々です。木造仕立てのもの、鉄骨で金網を取り付け、小屋になっているもの、なかには、使い古した風呂おけなどを利用しているものもあったり、カラスなどの被害から守るためや夏場に生ゴミなどが腐らないように通気性をよくしたものなどもあり、各集落の創意工夫が見受けられました。

また、集積所の位置もかなり異なり、集落の住宅密集地を避けて、収集車の寄りつきが容易にできるよう県道、町

▲手ぎわよくゴミ収集にあたる皆さん(池の内)

▼時折ある黒のビニール袋のゴミ袋

▲積雪のなか俣野地域をゴミ収集に巡回する収集車（深山口）

道に設けてありました。

また、集積所の数も五十戸以上をかかえる集落でも、二か所とまとまってゴミを集めておられ、作業する人にとって、集落内に点在している場合は、収集作業を行うのにかなりの労力が必要であることを痛感しました。他の地域では、集積所を設置するために、用地の確保などが厳しい点もあると思われますが、今後検討課題だと思いました。

ゴミを出す一人ひとりの自覚と工夫

「冬場は、こうした雪により、運転上の注意を払いますが、夏場は、生ゴミなどの臭いに悩まされ、身体にしみつくような気がします」と収集作業を行いながら、語る伊藤禎人さん。もう、この仕事をして十七年になるというベテラン。

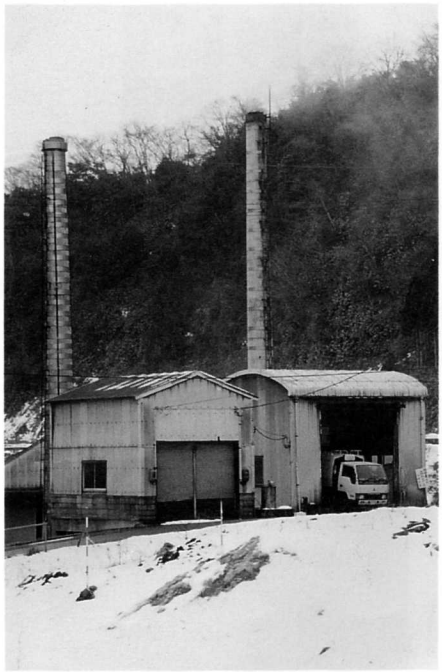
時折、目についたのが、黒いビニール袋です。

「何が入っているのか分からないので、おそろしいですよ」

ひところ、東京都が半透明の袋を使うようになったころ、プライバシーが侵されるという問題が住民からありましたが、ゴミを出す側の工夫によって、解決しつつあると聞きます。

黒袋に規則どおりに燃えるゴミが入っていれば、問題はないわけですが、問題があまりに多く、こうして収集作業をみていると、個人のプライバシーと道徳（モラル）の問題は一人ひとりの工夫と自覚のような気がしてなりません。

午前十時半ごろ、下安井、洲河崎集落を巡回し、ゴミを満載した収集車は一度、焼却場へと帰りました。



▲老朽化した焼却場

年間約一、四〇〇トンを収集・焼却

さて、この燃えるゴミは一体、年間どのぐらいこの焼却場で処理されるのでしょうか。

担当の環境整備課に聞きました。

「平成六年度は年間一、四三〇トン。月平均一一九・二トン。収集日数は三〇九日で、一日

当たり約四・六トンになり、年間で約五〇トン弱の増加傾向にあります」

集められたゴミは、即座に炉のなかに移されました。移されるゴミからは言葉では表現できないような悪臭が漂ってきました。「夏は、こんなものではないですよ」と作業しながら話す皆さん。

そして、炉に火を入れて、焼却作業が始まりました。

包丁・せん定ばさみなどが混入

順調に燃えるのを確認したところで、話を聞きました。

—どんなことが困りますか。

「やっぱり、燃えるゴミと燃えないゴミをはっきりわけてもらいたいですね。燃えるゴミのなかに不燃物が入っていることが時々ありますので、注意してほしいです。

特に、黒ビニール袋はなかに何が入っているか分からないので、この袋を使用することはやめてもらいたいですね。」

—今まで、どんなものがありましたか？

▲包丁・なべなどが燃えるゴミのなかに入っていました（焼却場）

「空カンはよくあります。また、スプレーなどです。これは炉のなかで加熱すると爆発しますので、大変危険です。

ほかには、剣道の面の鉄部、花火などです。なかには、包丁・せん定ばさみもあり、とても常識では考えられないものもあり、ゴミを出される人の気持ちがわかりません。」

▲顔をそむけたくなるような悪臭のなか、もくもくと作業をする皆さん（焼却場）

ペットボトルのキャップははずして

—ゴミを出す時に、心がけていただきたいことがありましたら？

「まず、生ゴミはもちろん水切りをして袋に入れてもらいたいですが、できれば、生ゴミといっしょに普通のゴミ、たとえば紙などをまぜていただきたいですね。というのは、生ゴミだけですと、炉の温度を下げてしまうため、燃えにくくなるからです。

また、近ごろ多くでるゴミにペットボトルがありますが、これを出される時は、ボトルのキャップははずしてください。キャップをしたままですと加熱した時に、ボトル内の空気が膨張して爆発してしまいます。これも、作業上大変危険ですので、よろしくお願いします。」と作業上での苦労話がいっぱいありました。

収集車は、次の収集区域へと向かって行きました。

この焼却場は五トン炉と二トン炉がありますが、両方とも老朽化が進んでいます。

▲キャップのついたペットボトル

日野・江府 二町共同の焼却場を建設予定

現在、三町衛生施設組合が事業主体となり、日野町・江府町の共同による新たな焼却場を建設することになりました。この施設は、処理能力一日十トンで、平成八年度に工事にかかり、平成十年度に本格的に運用が始まります。

そうなりますと様々な点が改正されると思われますが、どちらにしても、ゴミの出し方などのルールをしっかり守らなければ、いくら近代的な施設が整備されても論外のような気がしました。

最後に、担当の環境整備課で話を聞きました。

「とにかく、可燃物と不燃物の分別をきっちりと行っていただきたいことです。

今までもヘアスプレーが爆発したこともありますし、作業にあたる人にとっては、危険と隣り合わせです。

また、他町の実例で収集中にあったことですが、大きな竹ぐしがそのまま入っていたために、作業する方がそれに刺さってケガをしたこともあります。そのほかにも私たちのちょっとした心がけでこのようなこともなくなります」と節々と訴えていました。

▲危険と隣り合わせで働く伊藤さんの目は真剣そのものです

第2回 韓国特集

江原道（カンウォンド）ってどんな所ですか？

今、鳥取県は、韓国・江原道と平成四年から交流を進めています。交流の機縁については、一月号で紹介しましたので、今回は、江原道の概要について、話を進めたいと思います。

面積は三県（鳥取・島根・山口）とほぼ同じ

江原道―日本語ではコウゲンドウと読みますが、韓国語では、カンウォンドと読みます。韓国での江原道の位置は日本海側に位置し、北朝鮮と国境を接しており、面積は一六、八九三キロ平方メートルで鳥取県の約五倍。鳥取県と島根県そして山口県の三県を合せた面積とほぼ同じくらいです。人口は、約一五〇〇万人で、鳥取県の二十四倍になります。

行政区は道庁所在地の春川（チュンチョン）市（春川市まではソウルから車で約三時間）をはじめとする七市、そのほか十一郡から成り立っています。道内は、八二％が山林で占められ、豊富な森林資源があります。

国内でも指折りの観光地・雪嶽山（ソラクサン）

観光地は、一七〇八メートルの雪嶽山（国立公園）、スキーのメッカ五台山周辺のほか、日本海（韓国では東海（トンヘ）といいます）に面し、束草（ソクチョ）市、江陵（カンヌン）市そして東海（トンヘ）市などの周辺は多くの海水浴場があります。

かつての主な産業は、石炭とセメントでしたが、時代の変化により、現在は貿易、畜産、漁業そして観光です。

複雑な国際情勢のなかで生きぬく江原道を一度、目にすることも大切だと思います。

―平成八年度生産調整面積（転作配分面積）―

一三七・三ヘクタール 前年比 二五・六ヘクタール増

新食糧法による新生産調整推進対策スタート

平成六年・七年の二年間は、米の豊作により、需要と供給のバランスが崩れ自主流通米の価格が下がったり売れ残ったりと生産者にとって厳しい結果となりました。

このような現状を踏まえて、国では平成八年度から新食糧法による新生産調整推進対策が三か年の計画で行われることになりました。

それは、米の過剰在庫の適正化により、需給と価格の安定を図ることを目的としており、新食糧法による市場原理の導入、生産者の主体的な取組みという点を踏まえつつ、転作（生産調整）は着実に実施することが更に必要となりました。

新食糧法で何がかわったか？

昨年十一月一日に「主要食糧の需給及び価格の安定に関する法律」＝（新食糧法）により食糧制度が新しくできました。

ここでは、その改正点の主なものを説明します。

①米の全体需給の調整。

②民間流通による自主流通米を主体。

③需給実勢を反映した価格形成。

④規制緩和による流通の合理化。

以上の四点について、消費者、生産者の立場から新食糧法を具体的に見てみると、

消費者から見た新食糧法の改正点は次のとおりです。

①販売業者について、登録の要件も緩和されたことから、新規参入が容易になりました。

例えば、農協から直接小売業者に販売できるようになるなど多様な流通ルートとなりました。

②規制緩和により消費者ニーズにあった様々な商品ができ、精米購入の際の選択の幅がひろがり、小売価格も適正な価格競争が行われることになります。

また、生産者から見た新食糧法の改正点は次のとおりです。

①生産調整（転作）については、従来の一方的な減反方法を見直し、生産者や地域の動向などを尊重して行われます。

②計画流通米（自主流通米・政府米）として出荷するほかに、数量を届け出て計画外流通米（縁故米、贈答米など）として直接消費者などに販売することができます。

なお、計画流通米の自主流通米の取引にあっては、法律で位置づけられた自主流通米価格形成センターにおいて、行われる売り手と買い手との入札取引により形成されます。

このような改正点を踏まえて、生産者自身の自主的、主体的な生産調整がもとめられます。

加工米換算面積五・六ヘクタール 全量を補償とも

本町では、前項で説明しました新食糧法のもとで行われる「新生産調整推進対策」を実施する上で、一月二十九日JA鳥取西部江府町支所において水田営農活性化対策協議会（各集落の区長、農家組合長、転作推進委員長）を開催し、新対策の説明を行いました。

そのなかで、本町の生産調整面積は一三七・三ヘクタール（町の配分面積一四二・九ヘクタールから加工米換算面積五・六ヘクタールを引いた面積）で、昨年よりも二五・六ヘクタール増となっています。

この増加の理由には、新対策において潜在面積のとらえ方が異なった点にもあります。

つまり、従来の潜在面積から平成七年度に「かい廃水田」として確認された水田を除いた面積が平成八年度からの潜在面積となったことです。

また、新対策には、転作とも補償事業などを実施することで、生産者が相互に補償し合う仕組みもあり、新対策への十分な理解と協力をお願いします。

「町のために使ってください」米子市の岡田淑子さんから寄付金贈られる

一月十二日、米子市在住の岡田淑子さん（下蚊屋出身）が「町の教育振興に役立てていただければ」と町に寄付金を贈られました。岡田さんは、オペラ歌手として有名な大岩道也さんの父故大岩季男さんの長女で、「生前父はふるさとに何かしたいと日頃語っていました」と。これに対して、福田町長は「有効に使わせていただきます」と感謝の言葉を述べていました。

▲福田町長に寄付金の目録を手渡す岡田さん

江府町赤十字奉仕団

特別養護老人ホームで清掃奉仕

一月十六日、チロルの里特別養護老人ホームで恒例となっている町赤十字奉仕団の清掃活動が行われました。

この日のメンバーは七人。食堂のテーブルをはじめ各部屋の清掃を行い、入所しているお年寄りからは、感謝の言葉が寄せられていました。

▲清掃に余念のない町赤十字奉仕団の皆さん

昨年 ―町報二月号―県広報コンクールで入選二席に選ばれる

一月十七日、県庁において県広報コンクールが行われ、本町の町報こうふ二月号（昨年）が入選二席の栄誉に輝きました。

このコンクールには、広報、写真などの各部門に二十一団体から五十五点が応募されたものです。

講評で「阪神大震災の救援ドキュメントの大特集は、緊迫感の伝わるものであり、すごい意欲がにじみでている力作」と高い評価を得ました。

今後とも、読みやすく親しまれる町報づくりに努めて参ります。

▲阪神大震災の折の救援ドキュメントをあつかった町報2月号

平成8年 成人式

▲21世紀を担う顔・顔・顔

平成八年一月十五日、江府町山村開発センターで、平成八年成人式を開催しました。

今年の成人者は六十二人、当日は、仕事や試験勉強など個々の忙しいスケジュールを調整して四十五人が出席しました。

これだけの同級生が集まるのは、中学校の卒業式以来とあって、控え室では友達との久し振りの再会に会話が弾んでいました。

式では、成人者を代表して芦立典子さんが謝辞を述べられました。

▲成人者代表謝辞
芦立典子さん

式典後、本町出身者で現在近畿日本ツーリスト株式会社中四国営業本部副部長の足立勝氏による記念講演会を行いました。

「わたしの歩んだ道」と題された講演では、近畿日本ツーリスト入社後の苦労話などを講演され、成人者は熱心に聞き入っていました。

記念講演の後、篠田豊和さん、中田裕子さん、宮本康子さんの三人が、意見発表を行いました。

▲講師の足立 勝 氏

成人者名簿

（敬称略）

「昭和50年4月2日～昭和51年4月1日生」

本一	芦立 典子	鏡ケ成	平岩 香澄
〃	道下 隆志	〃	福島 薫
〃	上原 剛介	〃	岡野 辰美
本二	道下 和之	〃	山内 誠
本三	藤田 英子	〃	池田 知美
本五	大前 忠博	御机	小椋 邦夫
〃	荒金 勝	〃	中田 裕子
新一	渡邉 大介	〃	岡 敬之
〃	川端 康史	栗尾	末次 ゆか
〃	加藤 雅一	美用	下垣 涼子
新二	手島 忠之	〃	川上 智美
〃	加藤 靖昭	〃	川島龍太郎
小江尾	手島 早苗	小原	谷口 英雄
〃	篠田 豊和	宮市原	村井 靖則
〃	篠田 ゆみ	貝田	遠藤 進
久連	竹内 淳子	〃	谷田英里香
佐川	遠藤 武臣	下安井	三輪 大輔
〃	遠藤 祥将	洲河崎	佐々木弘一
〃	沢山 孝博	〃	浦部 貴正
〃	安部 秀樹	半の上	徳岡 由則
〃	前田 陽子	〃	西岡 隆
〃	宇田川圭介	武庫	宇田川淳子
柿原	奥田 園恵	新道	石原 由理
吉原	新見 文臣	〃	藤川 雅子
西成	山本 雅寛	池の内	加藤 美穂
袋原	清水 貴生	〃	藤原亜矢子
〃	清水 将文	〃	南波 和也
大河原	安田 正人	〃	藤原 亜弓
〃	亀田 美香	〃	加藤啓一郎
助沢	加藤 健一	尾上原	宮本 康子
下蚊屋	大森 和文		
〃	小椋富士子		

合計62人（男性38人 女性24人）

篠田豊和さん

人のくらしに役に立ちたい

私の育ったこの江府町は、都会にはない豊かな自然環境の中で、美しい自然と素朴で温かい人情が失われることなく残っています。(中略)

現在私は西部広域の江府消防署に勤務しています。

消防署とは、住民の皆様の「生命、身体及び財産を守る」という崇高な任務をもった職場です。(中略)

しかし消防署に入った頃は何もかもが初めてで、勤務中は常に緊張し、さらに不安でした。その不安を日頃の訓練で一つ一つ自信にかえていかなければなりませんが頭で理解できても体がついてこないのです。しかし江府消防署の先輩方のご指導により、少しずつ自信がついてくるようになりました。でもこれからは一日でも早く先輩方の手を煩わせない様にしなければなりません。また消防、救急の仕事だけではなく独居老人、身体障害者宅を訪問し火災等の予防にも努めています。この仕事は人との対応にとても気をつかい、いろいろな人から教えてもらうこともたくさんあり、とても勉強になります。

最後に、成人を迎えた今、自分自身の行動に責任を持ち、冷静に物事を見つめ江府町民としての誇りを捨てず、皆様の安心した暮らしに少しでも役に立ちたいと思います。

中田裕子さん

誰にもある輝いた日々

成人という意味は、大人と認められるようになったということなのでしょうが、いつもと変わらない日々を送っているにすぎません。(中略)

誰にでも成人までに心に残っている輝いた日々がそれぞれ幾つかあると思います。

私にとってたくさんある中の一つをあげてみれば、高校時代のクラブでとてもいい仲間にめぐり合えました。「勝ちたいっ」「強くなりたい」というみんなの気持ちがあるだけで、私たちは夢中になって汗をかき、悔し涙を流しながら練習をつづけていました。私はその時初めて前向きに逃げ出したりせず、頑張って行けば、それなりの結果に結びつくこと、やればできることをしみじみと実感しました。

それは言うまでもなく、私たちを見守ってくださった両親やコーチ、応援してくれた友達があってこそなのです。

この三年間で得たものは、とても大きくて深いものでした。私はこの三年間で学んだ前向きに後悔することのないような努力をこれからも続けて行きたいと思います。また、社会人として仕事をするようになって、いつもの私では通用していかないことがわかりました。(中略)

まだまだの私ですが、ほんのわずかな数年だけでも学んだことは多かったです。これから私は、今まで私が受けてきた温かい心を、今度はたくさんの人に伝えていきたいです。そして、成人として強く優しい人間になり、自覚と責任のある大人になっていくよう頑張りたいです。

宮本康子さん

自立に向けて歩き出します

現在私は福祉関係の学校に籍を置いておりますが、卒業後は米子市内にある特別養護老人ホームに就職が内定しています。

周りの人に介護職につくと言うと「大変だね」「偉いね」という言葉が返ってきます。実習に行って確かに大変ではありましたが、そんなことも忘れてしまうほどの喜びがあったからこそ、私は特養に就職しようと決めたのです。自分のやりたかったことなので、多少の不安はありますが、今からとても楽しみです。(中略)

今までの二十年間を振り返ってみると、私は人に頼ることが多く、自分が責任を負うということを避けてきていたように思います。しかし、これからは避けることができません。自分自身に責任をもち、自立して行かなければいけません。しかし、すべてから自立するのではなく、親の前ではいつまでも子供でいようと思っています。

今日の成人式を機に、自立に向けて歩き出します。今まで私を見守り、又、ご指導を賜った皆様、ありがとうございます。そして、今後ともよろしくお願い致します。

わだいのひろば

平成8年の走り初め

第19回新春マラソン大会

▲96年最初のダッシュ

平成八年一月七日(日)第十九回新春マラソン大会が、江尾駅前を中心に開催され百六十人の選手が参加、元気一杯今年の走り初めを楽しんでいました。

当日は、江府町山菜研究グループによる、ダンゴ汁のサービスもありました。

結果は次の通りです。

個人の部

幼児の部

一位・野口岳、二位・米田麻美、三位・岡本茜

小学校低学年男子の部

一位・宇田川敦史、二位・大島こうじ、三位・白石信幸

小学校低学年女子の部

一位・藤原恵里香、二位・岡本まり絵、三位・加藤美有希

小学校高学年男子の部

一位・藤原佑介、二位・大島優一、三位・加藤義和

小学校高学年女子の部

一位・瀬島優、二位・藤原美咲恵、三位・林美香

中学校男子の部

一位・川上洋祐、二位・細田祐、三位・影山陽平

中学校女子の部

一位・住田恵美、二位・中尾千恵美、三位・川上人美

一般の部

一位・井原慎一、二位・上原尊文、三位・吉川幸

継走の部

中学校男子の部

一位・近未来ポリス パートⅥ、二位・近未来ポリス パートⅣ、三位・近未来ポリス パートⅤ

中学校女子の部

一位・ねりわさび、二位・江府中学校バレー部C、三位・グーグーガンモ

一般の部

一位・江府町職労青年部鐘紡、二位・マッチザハッチ、三位・でんなる

奥大山スキー場で自然と対話

第22回奥大山スキー大会

▲奥大山の自然とのふれあい

平成八年一月二十九日(月)第二十二回奥大山スキー大会が、奥大山スキー場で開催されました。

これまでは、日野郡内の方しか出場できませんでしたが、今年から西部地区全域に出場枠を広げ百五十人の参加がありました。

結果は次の通りです。

ジャイアントスラローム

小学生女子

一位　下村香織　日新小
二位　小豆澤かえで　石見東小
三位　角　愛子　伯仙小
四位　辻　幸江　車尾小
五位　角麻衣子　伯仙小
六位　金田千明　石見東小

小学生男子

一位　中村臣輔　岸本小
二位　村尾茂樹　溝口小
三位　高津亮二　米沢小
四位　林　弘一　米沢小
五位　江原　徹　尚徳小
六位　福本一敬　岸本小

中学生女子

一位　梶原美加　江府中
二位　上原真知子　江府中
三位　川端英子　江府中

中学生男子

一位　高津尚志　江府中
二位　筒井範明　江府中
三位　森谷哲郎　江府中
四位　田口太洋　江府中
五位　田中宏幸　江府中

クロスカントリー個人の部

小学生女子

一位　松本早代　日光小
二位　小谷智美　石見東小
三位　笹間えり　石見東小
四位　小豆澤かえで　石見東小
五位　金田千明　石見東小
六位　小谷さやか　石見東小

小学生男子

一位　槙原尚則　石見東小
二位　内田輝久　日光小
三位　中尾友也　米沢小
四位　内田恵吾　石見東小
五位　中島　淳　日光小
六位　田村　誠　日光小

中学生男子

一位　田村直樹　溝口中

クロスカントリー継走の部

小学生女子

一位　石見東A
(金田・笹間・小谷・小谷)
二位　石見東B
(小豆澤・佐伯・山形・安達)
三位　日光小A
(松本・遠藤・遠藤・中島)

小学生男子

一位　日光小A
(田村・内田・田村・中島)
二位　石見東A
(槙原・宇田・内田・吉澤)
三位　米沢小A
(筒井・中尾・川上・大岩)

全国中学校スキー大会結果

ジャイアントスラローム

川上拓磨(江府中)一〇〇位

私たちは、人と人とのまじわりの中でお互いに影響しあって生きています。

そんな普段の生活の中で、ともすれば人を外見だけで判断してしまいがちです。

「人は見かけによらない」という言葉もあるように、外見だけではわからないこともたくさんあります。

今回の「人権の木」では、江口いとさんの詩を紹介します。

江口さんは、愛媛県の小さな漁村に生まれ、八十才を過ぎた今も差別解消のために全力を投じておられます。

紹介する詩は、その著書「荊(いばら)を越えて」の中におさめられているものです。

人の値うち

江口いと

何時かもんぺをはいてバスに乗ったら
隣座席の人は私をおばはんと呼んだ
戦時中よくはいたこの活動的なものを
どうやらこの人は年寄りの着物と思っているらしい
よそ行きの着物に羽織りを着て汽車に乗ったら
人は私を奥さんと呼んだ
どうやら人の値うちは着物で決まるらしい
講演がある
何々大学の先生だと言えば
内容が悪くとも
人は耳をすませて聴き
良かったと言う
どうやら人の値打ちは
肩書きで決まるらしい
名もない人の講演には
人はそわそわして帰りを急ぐ
どうやら人の値うちは学歴で決まるらしい
立派な家の嫁さんが部落にお嫁に来る
でも生まれた子供はやっぱり部落の子だと言われる
どうやら人の値うちは
生まれたところによって決まるらしい
人々はいつの日　このあやまりに気付くであろうか

詩―江口いと著「荊をこえて」青葉図書、一九八一年より
カット―人権読本「じんけんの詩」より

文化財シリーズ

一旦の宝篋印塔(ほうきょういんとう)

「一旦の宝篋印塔」のある場所は、井上健治氏宅の裏山の裾野に日野川を見おろすようにして建っています。

「宝篋印陀羅尼経(ほうきょういんだらにきょう)」という経典を納めた供養塔を宝篋印塔といい、五輪塔とともに、石塔のうちでは最も一般的なものです。

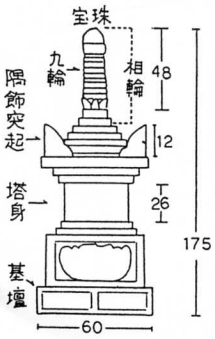
石造物としては鎌倉時代中期ごろから盛んに造られるようになりました。

鎌倉時代後半になりますと、宝篋印塔は大型のものが造られるようになり、形もどっしりとした、形の整ったものがみられるようになります。この傾向は室町時代まで引き継がれますが、それ以降は本来の形式がくずれ、大げさで装飾的になり、重厚さは影をひそめるようになります。

「一旦の宝篋印塔」は、その隅飾突起の立ちあがりや、素朴な重厚感から、戦国時代のものではないかと言われています。

一説には、毛利氏に攻められ滅亡した江美城主・蜂塚(はちつか)氏をしのんで建てられたのではないかと言う意見もありますが、詳しいことは分かっていません。

相輪が一部破損してはいるものの、ほぼ完形のこの宝篋印塔は、江府町内の石造物として第一級の石造美術品といえます。



図の数字は実測値(単位:cm)

る私を求めて

村おこし塾 日和会

最近、各地のジゲおこしの話を聞きますが、町内でも各種の催しものを通して地域の活性化に努力している集落やグループがあります。今回は昨秋の生涯学習推進大会の講演会に引き続いて発表された日の詰集落の活動の様子を紹介します。

日の詰は、三十戸の集落ですが五年程前から世代の交代が進み、若い人達が集会等に顔を出すようになりました。そのうち「若いもん」で何かやってみようという気運が高まり二十名の会員でスタートしました。最初の「昭和二桁会」という名称も、一年後の秋の総会で「日の詰集落の和を大切に」ということから「村おこし塾・日和会」と改めました。

この会が発足した背景には、ここ半世紀間の社会生活の変化に伴って、便利さを求めることが優先し、田舎の良さが失われてきているのではないかといった懸念が若い人に潜在していたからだと思います。

▲僕の馬もできたよ

この会が発足したのが十一月でしたので、良縁・家内安全の神様をまつる行事としての「さいの神さん」を復活することから始まりました。大人の背丈程もある藁の馬つくりは高齢者の方に製作をお願いしますが、手ほどきを受けた会員との共同作業が始まると珍しがって子供も集まり、賑やかにその準備が行われます。

十二月下旬には全員が手わけして集めた材料で公民館の門松づくりです。苦労しながらの製作ですが、年ごとに上手になってきました。

冬の行事は「自作そり」大会への参加です。毎年、夜遅くまで頭をひねってデザインや設計を考え製作にかかります。その甲斐あって昨年はスピード、デザイン部門とも優秀な成績を収めました。

六月中旬の「代みて運動会」が近づくと老人会が広場の草取りをして下さる程で部落上げての行事として定着しています。八月初め、川をせいて里帰りの子どもも一緒に行う鱒つかみ大会も好評です。

▲この競技だけは負けません！

以上、日和会活動の概要にふれましたが、今後も気軽に、急がず、マンネリに気をつけ、息長く活動したいと思います。

日和会　中尾唯秋

『ボランティアグループ』あじさい

現在、五十三名の会員が、五班に分れて、ひとり暮らしのお年寄りなどに手づくり弁当を提供しています。

結成して四年。お弁当だけでなく、会員のまごころも伝えたい。ボランティア活動を通して、互いに支えあう地域づくりに役立ちたいと努力しています。

活動に参加したい人、関心のある人は、江府町社会福祉協議会までご連絡下さい。

（☎七五―二九四二）

▲おいしそうですね

まごころを、皆さんで伝えたいと思いますので、ご協力をよろしくお願いします。

生涯学習基本テーマ

明日へ生き

オリンピックの資料は図書館へ

No.44 図書館だより

江府町立図書館

閏年

「きさらぎ」は「衣更着」ともいい、着た上に更に着るという意味があるそうですが、そろそろ春の気配も感じられるようになってきました。

こたつの上に広げた春播き野菜のカタログを見ながら、今年のトマトはどの種子にしようか……と考えるのは楽しいものです。さぁエネルギーをしっかり溜め込んで春に備えねばなりません。

今年はオリンピックのある年、閏年です。

閏年とは、太陽暦で一回帰年(365・2422日)と三六五日との差を埋め合わせるため、二月に第二十九日を加え一年を三六六日とする年です。現在は、西暦年数で四の倍数となる年のうち、百の倍数で、四百で割り切れないものを除いた年が閏年とされています。

また、地球の自転速度に基づいて定義された世界時を自転速度が遅くなったことにより、秒単位の基準である原子時との差を合わせるため、追加したり消失したりする秒、閏秒が設けられています。

年月は、太古から同じ速度で流されているものと思いきや、その時々にちょっとした微調整を加えなければ帳尻が合わないことが解ります。

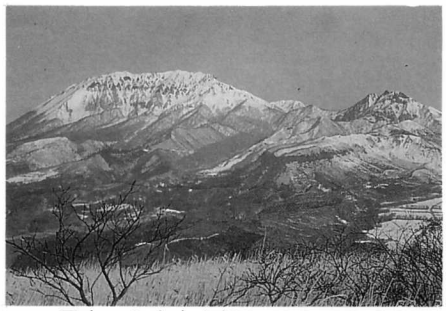
ともあれ、今年は例年より一日多い三六六日働かなければならないわけです。

江府町立図書館も、きっと皆様のお力になれることと思います。

『ミニギャラリー』

江府町の山から眺めた風景を写真で紹介しています。

加藤　努さんの作品です。



▲三平山から大山を望む

新着図書

(小説)

○大わらじんの男(四)　津本　陽
○足引き寺闇魔　澤田ふじ子
○十津川警部の抵抗　西村京太郎
○怒りの北陸本線　〃
○リング　鈴木　光司
○とんぼ　伊集院　静
○海がきこえる　氷室　冴子
○恋愛物語　柴門　ふみ
○いつか大人になる日まで　柴門　ふみ
○別れの十二カ月　梅田ふみ
○愛をする人　堀田あけみ
○桃色珊瑚　図子　慧
○君は時のかなたへ　中島かずき
○君といた夏　北川悦吏子
○面一本　出久根達郎
○詐話師　麻以　祥子
○雪女郎　皆川　博子
○殺したい女　林葉　直子
○違法弁護　中嶋　博行
○物的証拠　ジョンTレスクワ
○イブのすべて　TJマグレガー
○反逆　バーナード

(エッセイ)

○男のリズム　池波正太郎
○すべての男は消耗品である　村上　龍
○流されゆく日々　五木寛之
○そういうふうにできている　さくらももこ
○松本　松本　人志
○それでも女が好き　ビートたけし
○脂肪　中島　唱子
○回想ビルマ作戦　野口省己
○ジョンレノンを殺した男　ジョーンズ
○犠牲　柳田　邦男
○幸福の方程式　平野　裕之
○名将に学ぶ人間学　童門冬二

◆場所
山村開発センター（2階・大集会室）
◆テーマ
「今、輝いて、女と男」
～ 生き生きしていますか
あなたの毎日 ～
◆内容
・講演：テーマ「生き生きと暮していくために」
講師：鳥取県精神保健福祉センター所長
原田　豊さん
・世界女性会議ＮＧＯフォーラム参加報告
井上廉女さん、越峠恵美子さん
◆お問い合わせ先
役場・総務課女性問題担当
☎０８５９－７５－２２１１

おじいちゃんが救った幼い命

―習っててよかった 救命救急講習―

昨年12月13日、米子市内の幼児が風呂場でおぼれ、それをおじいさんが助けた事件がテレビ、新聞で大きく報じられました。

これは、３歳になる幼児が姉といっしょに入浴中、潜りっこ遊びをしている時、あやまって事故になってしまった。浴槽の中で沈んでいた我が子をみた母親はぼうぜんとして立ちつくしていた。

悲鳴を聞いたおじいさんがかけつけ、以前習った救命法―心肺蘇生法を行った。人工呼吸１回、心臓マッサージ５回（10歳以下の場合）を必死に繰り返したところ、息を吹き返し、幼い命を救ったというものです。

いつ、だれが、どこで事故に遭うか分りません。そのために、ぜひ、救命救急法を学んでおきましょう。

◆お問い合わせ先
江府消防署・救急係 ☎77－2001

INFORMATION

お知らせ

INFORMATION

知っていますか？ 行政手続法

行政手続法のねらいは

これは、行政が行う様々な手続をできる限り、公正で透明なものにして、住民の皆さんをはじめ企業の方々との関係の改善を図ることを目的としています。

その主なねらいとして、次の３点が上げられます。

①様々な許可などの申請の処理をわかりやすく迅速にしようとするためです。

②例えば、営業免許の停止という厳しい行政処分―これを不利益処分といいます―を行う時、住民や企業の方の権利をいかに保護するかというためのものです。

③行政指導をわかりやすく、透明なものにするためのルールを定めるためのものです。

以上の点を踏まえて、わかりにくく、遅いといわれるお役所の仕事にメスを入れるための法律といえます。

審査基準、標準処理期間などを公表しています
―役場の窓口で―

あらゆる許可、免許などを受けるには、どのような条件をクリアーすれば、できるか。―（審査基準）

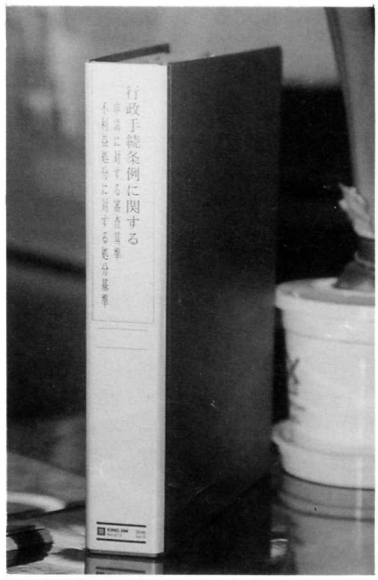
また、申請が出されてから、何日までにその結論を出すか。―（標準処理期間）などを公表しなければなりません。

このように、その条件、期間があらゆる許認可に決まっていますので、現在、役場の窓口に「行政手続条例に関する審査基準、処分基準」のファイルがあります。

この基準どおりに行われているかどうか、チェックすることも可能です。

行政手続法は、住民一人ひとりの権利を守る大切な法律です。

ぜひ、一度ご覧になり、許可申請をしたのに、回答がないとか、その不許可に対して意見がある場合など、その担当者にぜひお問い合わせください。



▲役場窓口にある行政手続法のファイル

予防接種の方法が変わります

— 集団接種から個別接種に —
4月1日からスタート

◆ねらい

このたび予防接種法が改正されました。このねらいは、予防接種を集団から個別接種に移行させるためです。

この理由は、従来の集団接種は日時や場所が限定され、事情によっては受けられない場合がありました。また、今までの接種義務に半強制的な意味あいもあったため、保護者の意思を尊重するようにしたものです。

◆具体的な個別の予防接種の内容

本町は4月1日から次の予防接種が個別接種となります。

（なお、当分の間、ツベルクリンBCG及び小児マヒ生ワクチンは集団接種となります）

麻疹（はしか）・風しん・三種混合（百日咳ジフテリア・破傷風）、二種混合（ジフテリア・破傷風）

◆個別接種できる医療機関

米子市、境港市、西伯郡、日野郡全域の病院・医院。

（詳しい医療機関名については、後日、お知らせします。なお、町内では江尾診療所で行います）

◆費用負担

料金は無料です。

◆該当の方への連絡方法

現在、予防接種の必要な方には予診票綴と冊子「予防接種と子供の健康」を3月中に直接郵送します。

また、今後お子さんを出産された方には出生届を提出された時に役場窓口でお渡しします。

◆予防接種を受ける時の注意事項

①子供さんの体調のよい時に受けてください。
②希望される医療機関に前もって電話で予約してください。
③役場からの予診票は詳しく正確に記入した上、母子健康手帳とともに医療機関に提出してください。
④子供さんの様子のよくわかる人が同伴してください。
⑤接種について、または接種後の注意、副反応などについては直接医師に相談してください。
⑥接種後、母子健康手帳に接種済印を押してもらうか、接種済証を受け取り、大切に保管してください。

◆お問い合わせ先

詳しいことについては、役場福祉保健課健康対策係（TEL75－2211）にお問い合わせください。

講演会
「今、輝いて、女（ひと）と男（ひと）」
～ 生き生きしていますか あなたの毎日 ～

主催：町女性問題地域推進会議
江府町

◆ねらい

町女性問題地域推進会議では、地域における女性問題の解決に向け、男女共同参画社会の実現を目指し、現在取り組んでいます。

そのために、男女ともにあらゆる分野で協力し、生き生きと豊かにくらせる社会を目指すために講演会を行うものです。

◆日時

平成8年2月28日(水)
午後1時～午後4時10分

行事あれこれ 2月・3月

日付	行事予定	日付	行事予定
2/19(月)	町消防団まとい受彰報告会(11:30・県庁) 西部町村会	26(月)	不要犬引取日
20(火)		27(火)	
21(水)	町消防団まとい受彰祝賀会(12:00) 山村開発センター 保健委員会(9:30・老人福祉センター)	28(水)	女性問題講演会 (13:00・山村開発センター)
22(木)	1歳6か月児検診	29(木)	
23(金)	三町衛生施設組合議会	3/1(金)	
24(土)		2(土)	
25(日)		3(日)	

人の動き

1月届

●お誕生おめでとう

(住所)	(氏　名)	(性別)	(保護者)
洲河崎	佐々木花菜(かな)	女	宣　孝
下安井	三輪　成海(なるみ)	女	俊　二

●ごめい福を祈ります

(住所)	(氏　名)	(年齢)	(世帯主)
新　道	渡邊　菊代	76歳	本人
日の詰	中尾　幹代	75歳	幹雄
一　旦	宇田川玉枝	80歳	本人
御　机	岡　照雄	90歳	本人
洲河崎	影山　孝	92歳	一亮
小江尾	藤原　聡	62歳	本人

来月号で300号!!

―再びカラー印刷(表紙)など―

3月号で発行300号という佳節を迎えることになりました。

これも、ひとえに町民の皆様をはじめ多くの読者に支えられてきた賜であると心から感謝申し上げます。

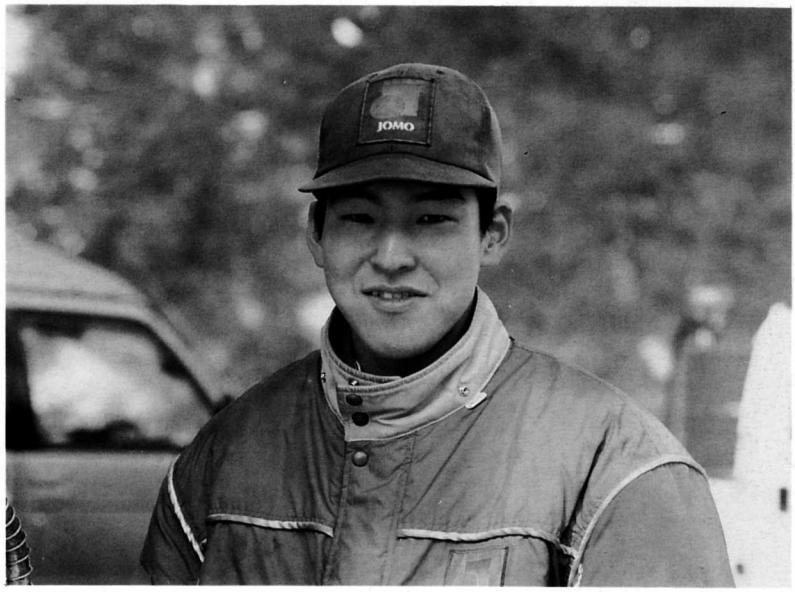
また、今月号で紹介させていただきました通り、県広報コンクールで入選2席に選ばれたことは、町報制作に携ってこられた先輩諸氏の情熱と継続の力の結晶であると思います。

これを機に、再び表紙をカラー印刷し、より親しみある町報づくりに努力いたしますので、今後共ご愛読いただきますようよろしくお願いします。　(広報管財係)

元気で～すヤング㉑

スノーボードをやってみたいです

栄光産業㈱根雨サービスステーション勤務　影山　純さん(21歳)



＊仕事の内容は？

勤めて約2年。給油・配達などを担当しています。

＊今、やっていることは？

青年団活動です。

＊やってみたいことは？

スノーボードをやってみたいですね。

＊趣味は？

音楽鑑賞。アップテンポのダンスミュージックが好きです。

＊好きな女性のタイプは？

やさしい人です。

＊行ってみたい所は？

ニューヨークなんか最高!

＊町にのぞみたいことは？

町民の皆さんと交流を深めたい。

ウォークラリーなどのイベントもありますが、もうちょっとほかのイベントもあればいいと思います。

編集後記

▼ゴミ収集から焼却までの同行取材で、まず思ったことは色々なゴミがブレンドされるとこれほどえげつない臭いがするのかと実感した。それに可燃物のなかに包丁やヘアスプレーまでが。特に、ヘアスプレーは加熱すると炉の中で爆発し、大きな被害をもたらす。今まで何もなかったのが不思議なくらいだ。捨てた人の非常識さと無責任さに腹の底から怒りが込み上げてきた。▼いったい、作業する人が分別してくれると思っているのだろうか。たとえ、誤って入ったとしても、決して許されるものではない。収集作業に携っている人は、すべてのゴミが規定どおり出してあると信頼し収集しているわけだ。その信頼を裏切るような行為はやめてほしい。▼せめて、ゴミを出す時にもう一度ゴミ袋をチェックするなど工夫してもいいと思う。いったい、だれがしたのかと詮索する前に、自分自身の胸に手をあてて考えてみてもいいのではないだろうか。

発行・江府町役場
〒689-44 鳥取県日野郡江府町大字江尾475 ☎0859(75)2211 FAX0859(75)2389
編集・総務課　印刷・冨士印刷